NEW ROD BRAND

YAMAGA Blanks

Extremity of Japan

The beloved brand of professional fishing

株式会社 山鹿釣具　〒861-0543 熊本県山鹿市小原山口 945　TEL. 0968-44-3939　http://yamaga-blanks.com

スペックよりも大事な何か

さて、竿は魚が釣れればいいというだけのものではない。ガイドフレームや使用カーボン・t数、価格等のスペックのほかに、テーパー、パワーなどは、ロッドを選択する上で重要な項目であることにはちがいない。

一方で、物語もロッドの大事な構成要素のひとつである。どんなにハイスペックなロッドでも、感性に訴える何かがないと腕の一部にはなりえないことがある。山鹿ブランクスのロッドはゼロからラストまで日本人が作っている。それだけでも、十分な物語がある。職人の魂が宿った山鹿ブランクスの竿。日本人のひとりとして、このロッドの存在を無視することができようか。

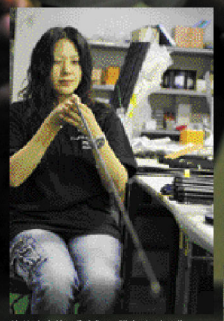
ニッポンの竿は日本人が創る

塗る

ロッドができるまで 四

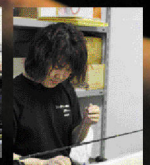
ブランクスの塗装

塗装の方法は、吹きつけや焼付け、しごきなどいくつかあるが、写真はしごき。最終仕上げのツヤだしと傷防止の塗膜を張っているところ。差し込んだロッドを一息に引き抜く。そのスピードは速からず、遅からず、一定でなくてはならない。また、途中で動きがギクシャクしてしまえば、塗装に段差ができる。無論、やりなおしはきかない。失敗すれば、ここまでの工程が台無しになる。



ガイドを直線にそろえる。誰もができる作業ではなく、生まれ持った直線という感覚があってはじめて可能になる。なんでも、心が曲がっているものにはできないのだとか

はみ出さないことは当たり前だが、すべてのスレッドを均一な大さに仕上げるのが職人の技。エポキシの量、筆の使い方など、長年の経験が随所に現れる部分



単色のスレッドでは味気ないが、飾りがひとつ増えるだけで作業は2倍の手間になる。それらもすべて日本人がやっているという事実に、少なからず感動があった

ロゴをいれる。塗料を押し付ける場合もあれば、シールを張る場合もある。性能には関係のないが、ロッドの顔であるこの部位は、もっとも目につく重要なデザインの要所